

コウノトリと共に生きる

～豊岡の挑戦～



提供：(有)富士光芸社

昭和35年 出石川(豊岡市) 農家の女性、但馬牛とコウノトリ

何を失ったのか どのように取り戻すのか



「コウノトリ野生復帰」の取組みの広がり

豊岡が取り組むコウノトリ野生復帰。一度は絶滅した野生動物を飼育下で繁殖させ、

かつての生息地である人里に帰していくことは、世界にも例のない壮大なプロジェクトです。

膨大な時間とエネルギーとコストをかけて、豊岡が取り組むコウノトリ野生復帰の目指すものとは。

コウノトリとの“約束”を果たす

私たちは、絶滅の危機に瀕していたコウノトリを救うため、捕獲して人工飼育する道を選びました。そしてコウノトリを檻の中に閉じ込めたとき、約束をしました。

「いつかきつと空に帰す」

約束は果たさなければなりません。

種の保存に関し、国際的な貢献を行う

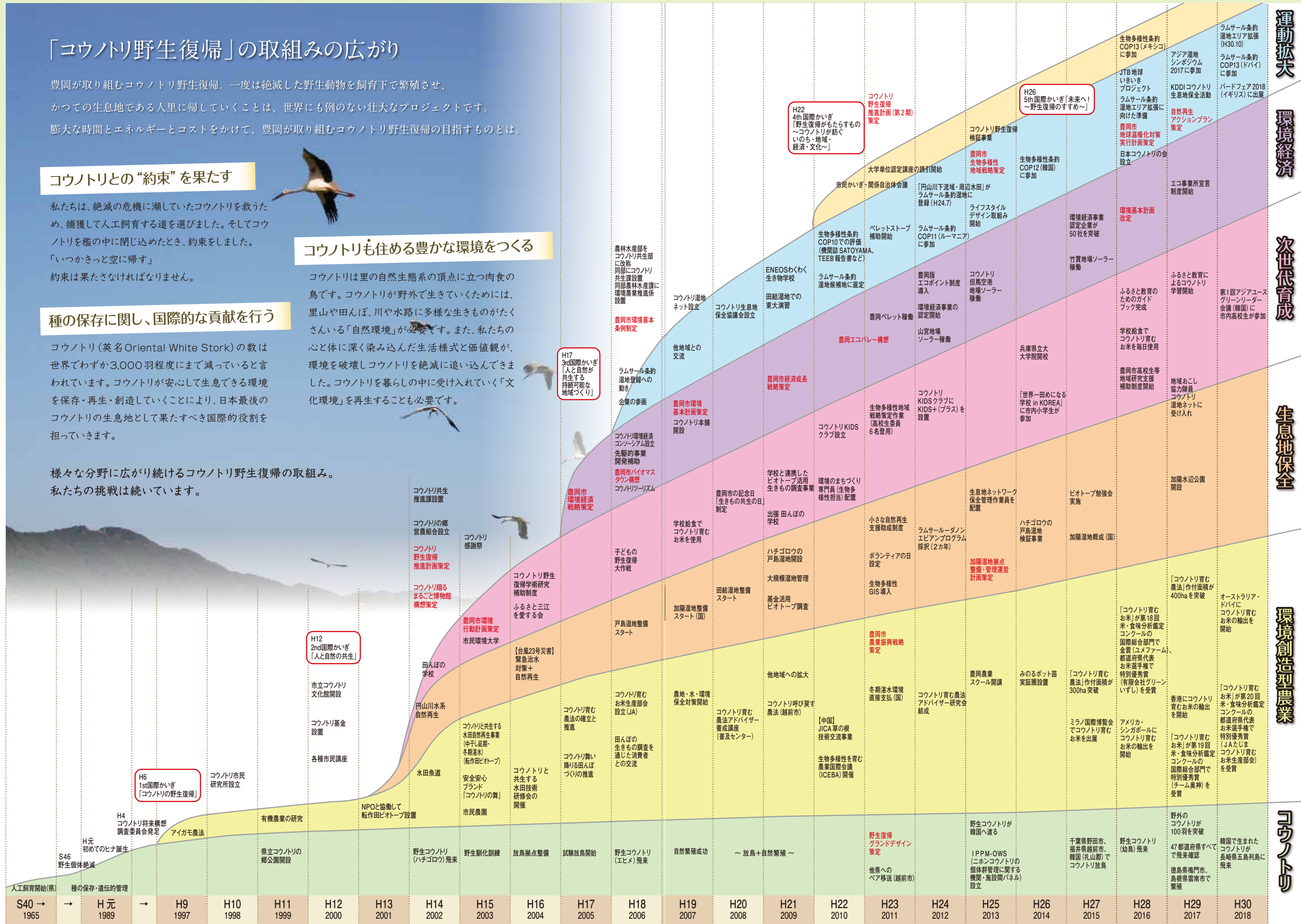
コウノトリ（英名 Oriental White Stork）の数は世界でわずか3,000羽程度にまで減っていると言われています。コウノトリが安心して生息できる環境を保存・再生・創造していくことにより、日本最後のコウノトリの生息地として果たすべき国際的役割を担っていきます。

様々な分野に広がり続けるコウノトリ野生復帰の取組み。

私たちの挑戦は続いています。

コウノトリも住める豊かな環境をつくる

コウノトリは里の自然生態系の頂点に立つ肉食の鳥です。コウノトリが野外で生きていくためには、里山や田んぼ、川や水路に多様な生きものがたくさんいる「自然環境」が必要です。また、私たちの心と体に深く染み込んだ生活様式と価値観が、環境を破壊しコウノトリを絶滅に追い込んできました。コウノトリを暮らしの中に受け入れていく「文化環境」を再生することも必要です。



運動拡大

環境経済

次世代育成

生息地保全

環境創造型農業

コウノトリ

取組みの広がり

コウノトリ 野生復帰



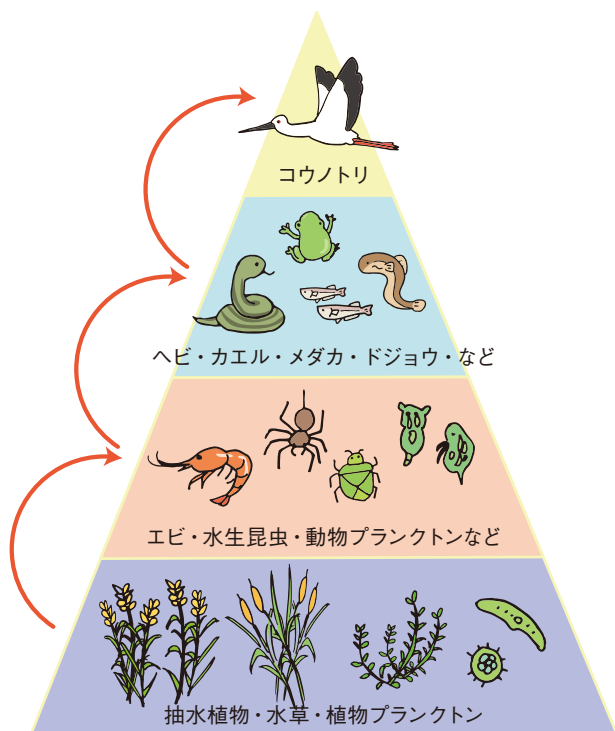
ドジョウを捕まえた

コウノトリってどんな鳥？

体長が約 1.1 メートル、羽を広げると 2 メートルにもなる大型の鳥です。

体重は 4～5 キログラム、肉食で、魚類をはじめカエル・ヘビ・バッタなどの生きた小動物をエサとします。大食漢で、飼育下では 1 日に約 500 グラムのエサを食べます。

コウノトリが生きていくためには
豊かな自然が必要です



かつて、日本で暮らしていたコウノトリは、昭和 46 年 (1971 年) 豊岡を最後に日本の空から姿を消しました。兵庫県・豊岡市は昭和 40 年 (1965 年) から人工飼育に取り組み、平成 17 年 (2005 年) 初の放鳥に成功しました。そして、現在、140 羽を超えるコウノトリが豊岡を中心に、日本の空を悠然と舞っています。

コウノトリは里の鳥

かつてはコウノトリがいることを当たり前として受け入れながら生活していました。

登校する子どもたちを見送るコウノトリ▶
提供：(有) 富士光芸社



S30 年代以降

生息環境の悪化

戦後の圃 (ほ) 場整備や河川改修によって湿田は姿を消し、川と水路が分断され生きものは激減しました。また、農業の使用によって生きものはなくなり、コウノトリの体も蝕まれていきました。

人工巢塔の下で農業を散布▶
提供：神戸新聞社



S46

野生コウノトリが絶滅

H1

初の繁殖に成功

人工飼育の開始から 25 年目に、ようやくヒナが誕生しました。以降増殖活動は軌道に乗り、毎年ヒナが生まれています。



▲初のヒナ誕生

H17

試験放鳥の開始

9 月 24 日、最初の放鳥が行われました。コウノトリは 34 年ぶりに豊岡の上空を舞いました。

コウノトリ放鳥▶



H19

放鳥コウノトリのヒナ誕生、巣立ち

放鳥したコウノトリにペアができ、卵を産みました。その卵からヒナがかえり、7 月 31 日、日本の自然界で 46 年ぶりに巣立ちました。

人工巢塔での親子▶



提供：兵庫県立
コウノトリの郷公園

H29

野外のコウノトリ 100 羽突破

コウノトリ放鳥から 12 年。野外のコウノトリはついに 100 羽を超えました。

環境と経済

コウノトリが野生復帰するためには、私たちの周りに、彼らを受け入れる豊かな環境（自然環境と文化環境）が再生されていなければなりません。豊岡では「コウノトリと共に生きる」ための自然環境と文化環境の保存・再生・創造を行うことで、環境と経済が共鳴するまちを目指す「環境経済戦略」に取り組んでいます。

環境経済とは？

環境を良くする取組みが経済効果を生み、経済効果が生まれるから環境を良くする取組みが活発になる。その結果、さらに経済効果が高まる。

CO₂を出さない発電機器



販売による利益



ソーラーパネル

環境創造型農業

「コウノトリ育む農法」は、おいしいお米と多様な生きものを育み、コウノトリも住める豊かな文化、地域、環境づくりを目指すための農法。



コウノトリのエサ場として重要な田んぼ（提供：JA たじま）



冬期湛水

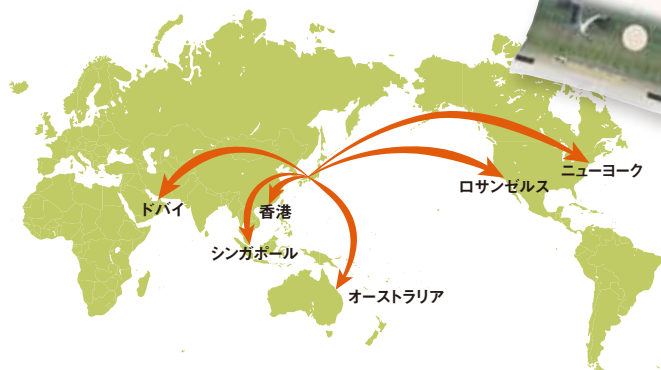
コウノトリ育む農法の要件

- ・農薬の不使用または7.5割削減
- ・化学肥料の栽培期間中不使用
- ・中干し延期
- ・深水管理（田んぼに深く水を張る）
- ・冬期湛水など



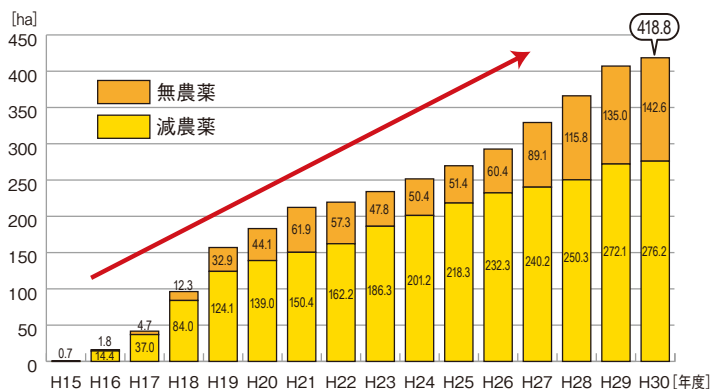
オタマジャクシに足が生え、カエルへと変態する7月上旬まで中干しを延期

「コウノトリ育むお米」海外へ！



安全・安心なお米は、海外でも人気です。アメリカの日本食レストランで使われているほか、香港の大手スーパーでも小売りされ、様々な方に愛されています。

豊岡市内の「コウノトリ育むお米」作付面積の推移



手間をかけ、安全・安心なお米を作るからこそ価値が高まる

生息地保全

コウノトリが生きていくためにはたくさんの生きものがいる湿地が必要です。豊岡では、コウノトリの生息地となる水辺環境の創出など、生息地保全に取り組んでいます。



ハチゴロウの戸島湿地



大陸から訪れた野生コウノトリ“ハチゴロウ”が好んだ湿田を、「ハチゴロウの戸島湿地」として整備しました。湿地内の人工巣塔では平成20年(2008年)から連続してヒナが巣立っています。

加陽水辺公園交流館▶



加陽湿地・加陽水辺公園

円山川と出石川の合流点付近に位置し、河川敷を活用した多様な湿地が創出されています。国や地域等と協働して生きものと人が共生する象徴的な空間の創出を目指します。



円山川

治水対策と並行し、河川敷に多くの浅瀬を創出するなど、自然再生の取組みが進められています。



田結湿地

コウノトリの飛来をきっかけに、田結区の住民が中心となり、研究者、企業、NPOなど様々な主体が関わりながら、休耕田を明るい湿地として保全しています。



水田ビオトープ

休耕田を活用して各所にビオトープをつくり、コウノトリのエサ場を増やしています。点在するビオトープは、湿地と湿地をつなぐコリドー(回廊)としても役立ち、生きものが行き来しやすい環境が広がります。

「円山川下流域・周辺水田」は、市民・団体・企業・行政などが関わりながら、失われた生態系の再生とコウノトリと共に暮らすための活動が行われており、これらの活動が世界に認められ、平成24年(2012年)7月に国際的に重要な湿地としてラムサール条約に登録、平成30年(2018年)10月には登録エリアが拡張されました。



次世代育成

生きものと人が共に暮らせる持続可能な社会に向けて、子どもたちと一緒にコウノトリ野生復帰に取り組み、「未来」を育てていきます。



コウノトリKIDSクラブ

コウノトリを中心とした生きもののための野外活動を通じて、コウノトリ野生復帰を未来に継承していただけるキーパーソンを育成します。

環境教育(ふるさと教育)



市内の全公立小中学校で、コウノトリ野生復帰について学ぶカリキュラムを実施し、ふるさとへの愛情を育んでいます。



出張!田んぼの学校

講師が地域に出張し、大人も子どもも一緒になって、身近な場所で生きものとふれあいます。

コウノトリと
お待ちしております。

豊岡市立コウノトリ文化館

開放的な公開ケージで暮らすコウノトリを観察したり、コウノトリ野生復帰の歴史などを学んだりできる拠点施設です。小川や里山の自然観察、野鳥観察など様々な野外体験もできます。毎月第3日曜日は、親子で楽しめる「田んぼの学校」を開催しています。



TEL 0796-23-7750 豊岡市祥雲寺 127 番地

コウノトリ野生復帰を 支援いただいています!

食べて貢献



学校給食でコウノトリ育むお米を毎日提供しています。年間で茶碗135万杯分を子どもたちが消費しています!

自然再生活動の支援



自然再生に取り組む団体を支援しています。

コウノトリ基金への寄付



コウノトリ育む農法の 広がり



消費が増えることで生産増加につながり、コウノトリ育む農法の田んぼが広がっています。

多くの企業や団体、観光客の方から豊岡市コウノトリ基金に寄付をいただいています。寄付に関するお問い合わせはコウノトリ共生課まで

コウノトリ基金は、
コウノトリが暮らしやすい環境づくり、
コウノトリも住めるまちづくり
のために活用しています!

生息地保全



たくさんの生きものを育む水田ビオトープの維持管理に活用しています。

企業による社会貢献活動

コウノトリを想う企業が、豊岡の子どもたち・大人たち・市民団体などと一緒に湿地作業に取り組み、コウノトリ野生復帰を支援しています。



発行
お問合せ

兵庫県豊岡市

〒668-8666 兵庫県豊岡市中央町2-4 豊岡市コウノトリ共生部コウノトリ共生課

TEL (0796) 21-9017 FAX (0796) 24-7801

URL <http://www.city.toyooka.lg.jp> E-mail kounotorikyousei@city.toyooka.lg.jp



このパンフレットは
環境に配慮した再生紙に
水なし印刷をしています